

チャリティグッズで動物を救うことはできるのか

3年1組1番 石田 和香葉

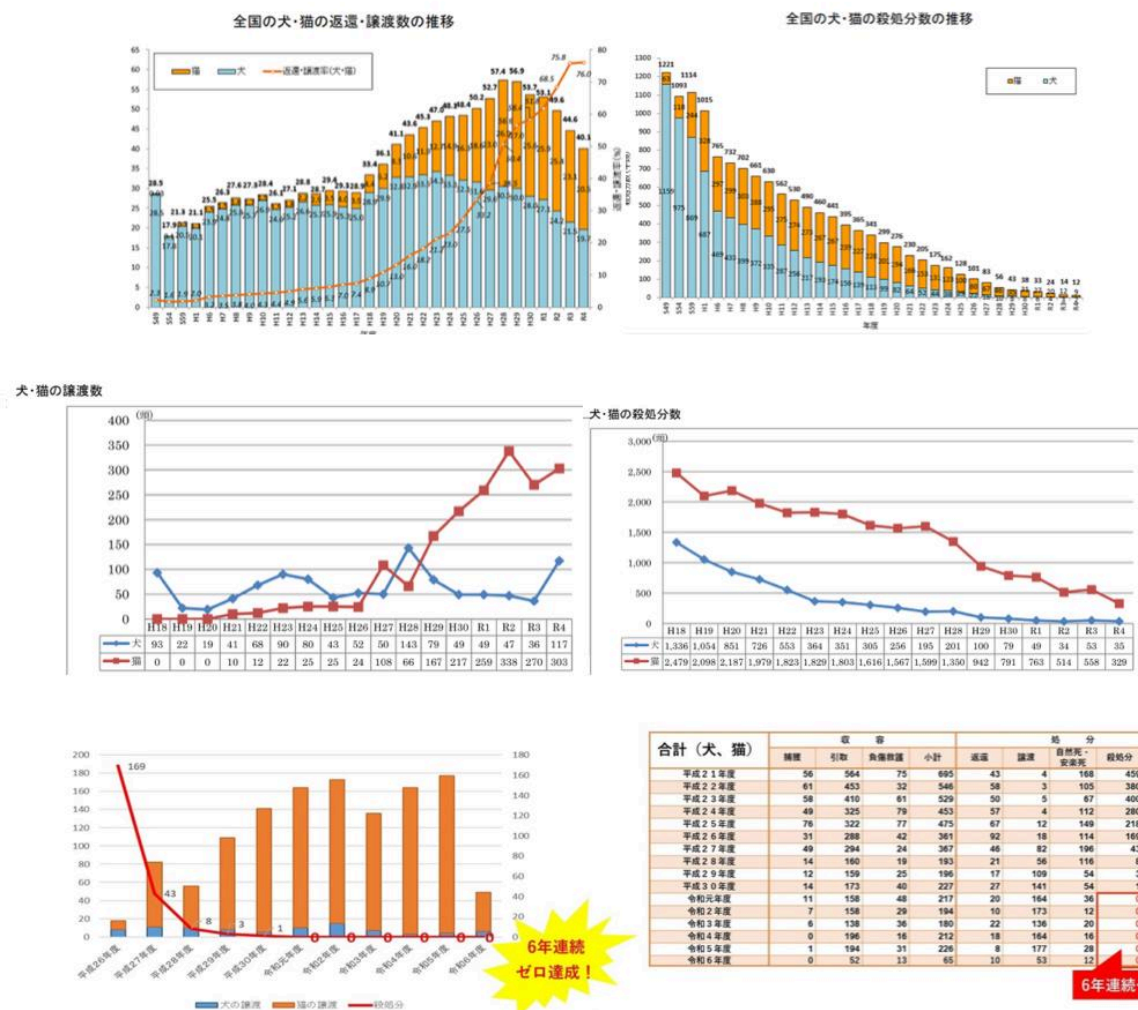
Keyword: 「保護動物」「動物保護団体」「チャリティグッズ」

1.はじめに

私がこのテーマで探究しようと思った理由は、小さい頃から動物好き、また、飼い猫が保護動物であり親しみがあるので、飼い猫のような保護動物を1匹でも多く助けたいと思ったためである。また、動物保護団体は資金と物資不足に直面していることを知り、チャリティグッズを通じて、保護動物だけでなく、保護動物団体にも興味を持ってもらうきっかけを作ることができると思ったためである。

2.序論

今の保護動物の現状について調べた。グラフは上から順に全国、奈良県、奈良市のグラフを見ると、全国的に譲渡数は増加して、殺処分は減少傾向にあるのが読み取れる。



3.本論

問いに対するアプローチとして。パナソニック譲渡会を訪問し、チャリティグッズ販売ブースを訪問、アニマルレスキューたんぽぽの“保護犬や保護猫はどこから来るの？”を聴講。後日、パナソニック譲渡会に参加していたアニマルレスキューたんぽぽ様、もふっこひだにデータ調べで疑問に感じたこと、チャリティグッズについてなど以下の質問をした。

アニマルレスキューたんぽぽへの質問

- 1.犬猫1匹あたりにかかるお金が医療費だけでも数万円かかりその費用はほぼ保護団体、ボランティアさんが負担していると知ったのだが、貴会ではチャリティで費用は賄えているか。
- 2.行政の犬猫の譲渡率は上がり、殺処分数は減っていることがわかったが、実情はどうなっているのか。貴会への見学者、譲渡率、寄付額の増減について。
3. 2019年の動物の虐待に5年以下の懲役又は500万円以下罰金が課せられる法改正が行われたが、それ以降虐待でのレスキューの数は減少したのか。

アニマルレスキューたんぽぽの回答

- 1.団体によるがチャリティだけでは賄えていない。
- 2.一見減ったように見えるが、ブリーダー、ペットショップなどのペット産業が保健所への持ち込み回数が減ったためである。
譲渡数は変わらず、寄付金、見学者数はその時によりけり。
- 3.全く減っていない。虐待をする人の心が変わらないかぎり減らない。

もふっこひだへの質問

1. 2019年の動物の虐待に5年以下の懲役又は500万円以下罰金が課せられる法改正が行われたがそれ以降虐待でのレスキューの数は減少しているのか。
- 2.チャリティーグッズひとつあたり何%動物たちの支援として使われているのか
- 3.チャリティーグッズが貴団体にどのような影響を与えるのか
- 4.寄付とチャリティーグッズとではどちらが多くの支援につながるのか。

もふっこひだの返答

- 1.世代によって動物に対する感覚が違うので、虐待のレスキュー数は目立って減っていない
- 2.100%。しかし、資金は足りず、団体のメンバーの持ち出しもある。
- 3.売り上げそのものよりも、活動を知ってもらうきっかけになる。
- 4.チャリティグッズの方が多くの支援につながる。(時間やコスト、販売するための営業、広報など多くの課題をクリアする必要があるため)

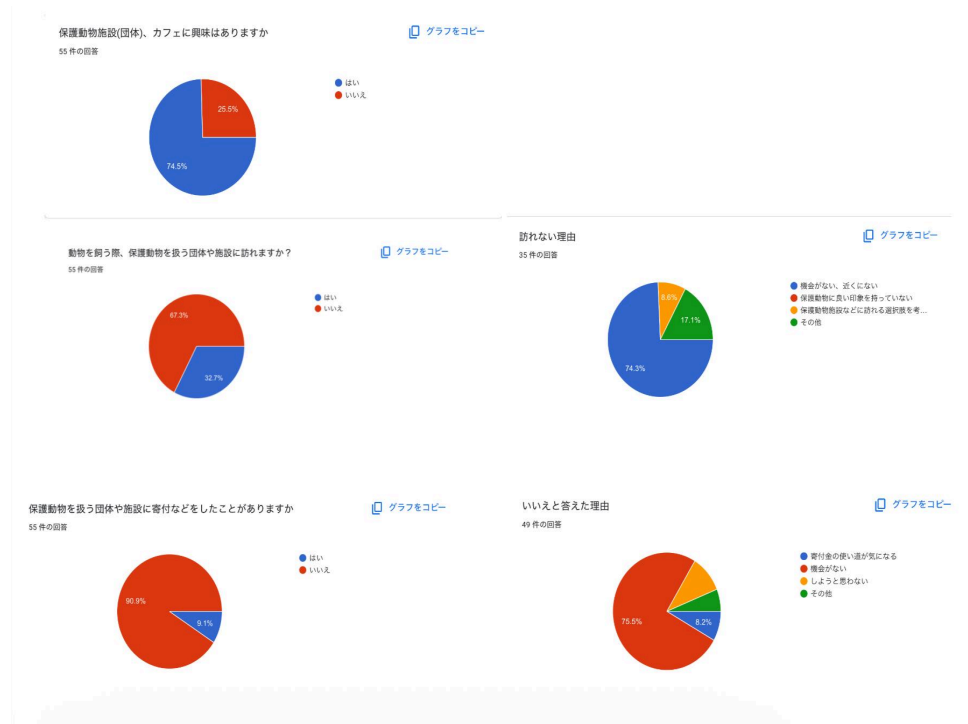
国際高校3年生に調査

動物保護カフェ、施設に興味はありますか

動物を飼う際、保護動物を扱う団体や施設に訪れますか

保護動物を扱う団体や施設に寄付などの支援をしたことがあるか

以下回答内容



4. 結論

保護動物団体、関連に興味はある人は全体の約7.4割と多いが、行動に移すほどの関心はないのは全体の約6.8割も占めており、思うことと実際行動することの間にギャップが潜んでいると考えた。また行かない理由に、動物保護団体に対するマイナスのイメージがあるという理由がなかったことが意外だった。

保護動物団体、カフェに興味があるにもかかわらず、“動物を飼う際、保護動物を扱う団体や施設を訪れますか?”という問いに対して、「いいえ」を選んだ人が多い理由としては、奈良県には保護動物施設が4つしかないためだと考える。この探究の結論はチャリティグッズよりも募金のほうが支援につながるということである。

5. おわりに

反省として、学校で作ったパンフレットを配布しようと思い、パンフレットのデータまで作ったが、時間管理が甘かったため作った時期が遅く配布にまで至らなかった。よかった点として、全校集会で私の探究を発表できたため、多くの人に知ってもらうことができたと考えている。グローバル探究でこの問いを探究するまでは、保護動物団体のことはあまり注目していなかったが、探究を通じて保護動物団体について探究したことで、保護動物だけではなく、保護動物を預かる保護動物団体の問題についても注視することができ、新たな視点を得ることができた。

参考文献

環境所「犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況」

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html

奈良市役所(2025)「犬猫殺処分ゼロを6年連続で達成しました【市長会見】」

<https://www.city.nara.lg.jp/site/press-release/236353.html> 2025年4月30日

奈良県「「奈良県動物愛護管理推進計画」

犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況」

<https://www.pref.nara.jp/secure/306613/chukanminaoshihonbun.pdf>